

平成27年度 学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立翠星高等学校

No. 1

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	達成度判断基準	判定	備考	
1 地域の食や環境の問題に積極的に関わり、地域の活性化に貢献する意欲と態度を育成する。	① ふるさと石川の「里山里海保全」の大切さについて理解を深めるために講演会、研究発表会等を実施する。	全職員 各年次 各コース 各研究会	【満足度指標】 ふるさと石川の「里山里海保全」の大切さを理解する。	里山里海保全の大切さが理解できた生徒の割合は A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C	生徒全体の評価では、69.9%とB評価にわずかに達しなかったが、1年生が57.8%であることにに対し、2年生で73.3%、3年生で77.7%と、年次があるごとに割合が高まっていることから、ふるさと石川の「里山里海保全」の大切さは、本校の教育のさまざまな場面で、実践され、生徒の学びとなっていることがわかる。	
	② 校内環境美化に積極的に取り組む。	保健課 特活課 各年次 各分掌 各コース	【成果指標】 校内の環境・美化に積極的に取り組んでいる。	校内の環境美化に積極的に取り組んでいると答えた生徒の割合は A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満		C	校内の環境美化に積極的に取り組んでいると回答した生徒の割合は68%で、昨年度よりも、日頃の清掃活動や生徒会主催の環境美化週間にも率先して参加する生徒が若干増えている様子である。今年度は全校生徒、職員参加の舎外清掃を実施し、また教室のワックスがけも環境美化委員を中心に行っており、自らの学びの場は、自分達で維持管理していかなければならないという意識が多少なりとも生徒の中に芽生えたようである。
2 学習意欲の向上と基礎学力の定着を図るとともに、進路実現に向けてキャリア教育の充実・強化に取り組む。	① 朝学習（翠星タイム）を通して、学びの姿勢や基礎学力を身につける。	教務課 各年次 各教科	【成果指標】 朝学習（翠星タイム）に取り組み、基礎学力を身につける。	基礎学力を身につけることができたと思う生徒の割合が A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	C	昨年度は74%、今年度は69.4%であった。2年前より朝学習に導入した新テキストの定着と基礎学力の向上を目指して、3年間の流れを確立できるように取り組んでいる。全体的に見ると、生徒は意欲的に取り組んではいるが、個「あまりあてはまらない」と答える生徒が各年次ともに2割強おり、後半に向けて指導の徹底と充実を図りたい。	
	② 生徒の授業評価や研究授業及び互見授業を通して、授業の工夫・改善を図り、授業改善に積極的に取り組む。	教務課 各教科 全教員	【満足度指標】 分かりやすいと満足している生徒が増えている。	授業が「分かりやすい」と満足している生徒の割合は A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満		B	昨年度は74%、今年度は72.2%であった。授業を「わかりやすい」と答えている生徒が7割を超えており、高い水準を維持している。後半においても授業研究週間の互見授業の積極的な活用や先生方個々においても授業の工夫と改善に取り組んでいただき、満足度の向上に努めていきたい。
	③ 3年間を見通し、各年次に応じたキャリア教育を積極的に展開し、全員の進路実現に取り組む。	進路指導課 各年次 各学科	【成果指標】 個々の生徒が積極的に資格取得へチャレンジしている。	資格取得にチャレンジした生徒の増加割合が A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満			取組中

平成27年度 学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立翠星高等学校

No. 2

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	達成度判断基準	判定	備考
3 社会人として必要な生活習慣や規範意識、マナー等の向上に取り組む。	① 生徒が自発的に挨拶を行うように、授業や登校指導において挨拶の指導を行う。	生徒指導課 全教職員 各年次	【成果指標】 自発的に大きな声で挨拶ができる生徒が増加している。	自発的に大きな声で挨拶ができたと答えた生徒の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B	前年度は71%、今年度は74%であった。一昨年から昨年は低下したが、若干持ち直した。昨年度に引き続き、無遅刻月間の取り組みと並行しながら全教員による朝の登校指導を実施しているが、先生方の参加率もあまり高くはない現状がある。後期は登校指導のさらなる充実を目指し、職員一丸となって挨拶・マナーの向上に取り組んでいきたい。
	② 基本的な生活習慣の確立を目指し、遅刻や欠席者の減少に取り組む。	生徒指導課 全教職員 各年次	【成果指標】 基本的な生活習慣が身につく、遅刻者が減少している。	前年度に比べ、遅刻者の減少割合は A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満	B	今年度7月末現在の遅刻者数は342名であり、前年度7月末における遅刻者数558名と比較すると39%減少した。昨年度から継続して実施している無遅刻月間及び遅刻者に対する奉仕活動の取り組みの成果であると思える。一方、9月以降生徒玄関の耐震工事の影響で生徒昇降口が変更したことによる登校時の混雑及び遅刻者の増加が懸念される。後期においても取り組みをゆるめることなく実施していくことが重要である。
	③ 交通安全指導の充実を目指し、教職員全員で登校指導に取り組む。	生徒指導課 全教職員 各年次	【成果指標】 交通マナーで街頭指導を受けた生徒が減少している。	前年度に比べ、街頭指導を受けた生徒の減少割合は A 30%以上 B 20%以上 C 10%以上 D 10%未満	A	7月末現在で、指導を受けた件数は昨年度が57件、今年は17件で、昨年に引き続き大きく70%減少している。しかしながら、他校との結果を比較するとまだまだ多いといえる。今後とも、学校全体をあげて日々の交通安全指導に取り組むとともに、講話等も計画し交通マナーの指導に取り組みたい。
4 部活動など課外活動への積極的な参加を促し、活力のある学校づくりに取り組む。	① 講習会、講演会などを積極的に取り入れ、部や研究会活動の活性化に取り組む。	特活課 農業クラブ 全教職員 各年次	【成果指標】 部や研究会活動などに積極的に活動する生徒が増加している。	部や研究会活動などに積極的に活動する生徒の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B	部活動加入率は、88.4%と昨年度より3.4%増加している。積極的な参加は、「あてはまる、だいたいあてはまる」を合わせて74.7%と昨年の71%を少しではあるが上回った。補習・実践演習等様々な予定が放課後に重なり、生徒は大変だが、今後も継続的な取り組みが望まれる。
	② 農業クラブ活動の活性化を図り、全国大会への出場者増加に取り組む。	農業クラブ 農業科 各研究会 各コース	【成果指標】 農業クラブ活動が活性化し、全国大会への出場者が増加する。	農業クラブ全国大会への出場者は A 16名以上 B 11名以上 C 6名以上 D 学校枠の5名のみ	B	北信越ブロック大会には、プロジェクト発表に1グループ、意見発表部門に3名が出場し、プロジェクト発表：食料・生産区分で最優秀を獲得した。今年度全国大会出場は、プロジェクト発表6名、農業鑑定競技5名、平板測量競技4名で、合計15名となった（昨年度全国大会出場者：プロジェクト発表9名、農業鑑定競技4名 合計13名）。 今後は、県内他校の指導困難な環境もあるので、本校のレベルが低下しないよう計画的、継続的な指導を行っていきたい。